

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数												
教科名	国語		科目名	論理国語			D	学	進	文	理	文	理			第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	7、具体と抽象の関係を理解するために 「人類による環境への影響」	4											
単位数	3	学科	看護科	学年	3 年	該当するコース・科 →									第 2 学 期			6 月 ～ 7 月	7、具体と抽象の関係を理解するために 「人類による環境への影響」	4										
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																														
① 新論理国語（三省堂） ② 新論理国語 学習課題ノート（三省堂） ③ 常用漢字ダブルクリア四訂版（尚文出版）																										★中間考査	1			
学 習 の 重 点 目 標																														
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。特に実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																														
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度																							
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 教科書・副教材の内容を中心に作問 ②小テストの出来 授業で学習した内容・漢字についての小テストを実施			①学習課題ノート・課題プリント 単元毎に学習課題ノート・課題プリントを実施 ②意見発表の内容 学習活動の中で、考えを深め意見を発表する活動を実施			①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 プリント・副教材 ③自己評価・振り返り 小テストや考査後に自己評価や振り返りを実施																							
評 価 の 基 準																														
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）																								
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで概ね理解できている。			B＋ 定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。		B－ 定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。		定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。																						
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができる。			探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。		探究的な課題やグループ活動にあまり組むことができていない。																								
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができる。			応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身につけてきている。		応用的な問題にあまり取り組むことができていない。																								
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。		あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。																								
	振り返るべき内容を的確に捉えて表現することができ、次の取り組みに活かすことができている。			振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。		振り返るべき内容をあまり考えることができていない。																								
総 時 間 数																										47				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数			
教科名	国語		科目名	文学国語			単位数	3	学科										看護科	学年		3年	該当するコース・科 →	
教科書・副教材・（発行所）																				第 1 学期	4月 ～ 5月	★中間考査	4	
① 文学国語（大修館書店） ② 文学国語学習ノート（大修館書店） ③ 常用漢字ダブルクリア（尚文出版） ④																								
学 習 の 重 点 目 標																					第 1 学期	6月 ～ 7月	「鍋セット」 「藤」	1 6 5
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。特に実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																								
評価の趣旨	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第 2 学期	8月 ～ 9月	★中間考査	6 6 1								
	①定期考査の出来具合 教科書・副教材の内容を中心に作問 ②小テストの出来 授業で学習した内容・漢字・リテラス検定についての小テストを実施				①学習課題ノート・課題プリント 単元毎に学習課題ノート・課題プリントを実施 ②意見発表の内容 学習活動の中で、考えを深め意見を発表する活動を実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 プリント・副教材 ③自己評価・振り返り 小テストや考査後に自己評価や振り返りを実施															
評 価 の 基 準																				第 2 学期	10月 ～ 11月	★期末考査	7 6 1	
知・技	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）				第 2 学期	12月 ～ 1月	★期末考査	10 1								
	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで概ね理解できている。				定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。															
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができる。				探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。				探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。				第 3 学期	2月 ～ 3月										
	応用的な問題にも計画的に組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができる。				応用的な問題に組み、ある程度の思考力や判断力が身につけてきている。				応用的な問題にあまり取り組むことができていない。															
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。				真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。				あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。				第 3 学期	2月 ～ 3月										
	振り返るべき内容を的確に捉えて表現することができ、次の取り組みに活かすことができている。				振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かしていない。				振り返るべき内容をあまり考えることができていない。															
総 時 間 数																				54				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	地理歴史		科目名	歴史総合												学 習 内 容		
単位数	2	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →								●	第1学期	4月	第1部 近代化と私たち 1 18世紀の世界とアジア 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本 4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会 7 市民革命と国民統合 8 明治維新	3 2 2 2
教科書・副教材・（発行所）																5月	中間考査	1
① 歴史総合 わたしたちの歴史 日本から世界へ（山川出版） ② ③ ④																6月 7月	9 富国強兵と文明開化 10 日本明治初期の外交 11 大日本帝国憲法の制定 12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合 第2部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 1 大衆運動の芽ばえ 2 第一次世界大戦	2 2 3 3 1
学 習 の 重 点 目 標																	期末考査	1
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。																		
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第2学期	8月	3 第一次世界大戦と日本 4 ロシア革命とその影響 5 社会運動の広がり 6 国際協調 7 アジアの民族運動 8 大量生産・大量消費社会 9 世界恐慌 10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア侵出 12 第二次世界大戦	2 2 2 2 2					
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 教科書、授業プリントの内容 を中心に作問 ②小テストの出来具合 学習した内容について小テストを実施			①レポートの内容 探究課題レポートを実施 ②グループ活動・発表の内容 探究課題についてグループ活動を実施			①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 ③自己評価 章ごとに振り返りを実施				9月	中間考査	1					
											10月	13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界大戦の終結 15 戦後国際秩序 16 冷戦の始まり 17 日本の戦後改革と日本国憲法 18 日本の独立 第3部 グローバル化と私たち 1 第三世界の登場 2 冷戦の固定化と「雪どけ」	3 3 3 3					
評 価 の 基 準															11月	期末考査	1	
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）				第3学期	12月	3 冷戦の展開 4 55年体制と安保闘争 5 高度経済成長 6 ベトナム戦争とアメリカ 7 経済構造の変化 8 日本の経済大国化 9 アジアの経済成長 10 社会主義の停滞と新自由主義 11 冷戦の終結 12 冷戦後の地域紛争	2 2 2 2 2				
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。			B＋		B－	定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。			1月		13 地域統合 14 現代世界の諸課題 15 日本の諸課題	3 3 3					
				定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。		定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。												
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。 各授業時間で学んだ内容について、多面的な視点を持ち、論理的に考え、判断する力を身に付けることができている。			探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。 各授業時間で学んだ内容について、ある程度多面的な視点を持ち、論理的に考え、判断する力が身に付いてきている。			探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。 各授業時間で学んだ内容について、多面的な視点を持ち、論理的に考え、判断することがあまりできていない。			2月		期末考査	1					
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。 振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。			真面目に学習に取り組んでいるが、もう少し積極性を要する部分がある。 振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。 振り返るべき内容をあまり考えることができていない。			3月								
総 時 間 数															65			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	数学			科目名	数学探究					D	学	進	文	理	文	理	護		第1学期	4月 ～ 5月		2章 図形の性質 1節 三角形の性質 2節 円の性質 3節 作図 4節 空間図形
単位数	3	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →														第1学期	5月	★中間考査
教科書・副教材・（発行所）																		第1学期	6月 ～ 7月		★中間考査	
① 教科書：新編数学A（実教出版：数A707） ② 問題集：ラウンドノート数学A（実教出版） ③ ④																			第1学期	6月 ～ 7月	※6月9日から7月4日まで看護臨地実習のため期末考査は実施しない。	
学 習 の 重 点 目 標																		第1学期		6月 ～ 7月		
①数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ②家庭学習をする習慣を身に付け、自己の学習方法を改善・調整しようとする姿勢を身に付ける。																			第1学期	6月 ～ 7月		
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第2学期	8月 ～ 9月	3章 数学と人間生活の活動 1節 数と人間の活動 2節 図形と人間の活動 3節 遊びの中の数学		9 9 2					
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 問題は問題集の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容についての10分間小テストを実施				①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価 ②定期考査後の振り返り課題レポートの記述内容を評価 ③グループ活動や発表の内容を評価				①授業中の態度や意欲を評価 ②課題レポートやノートの提出状況を評価 ③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価					第2学期	8月 ～ 9月	★中間考査		1				
	評 価 の 基 準																		第2学期	10月 ～ 11月	看護で使う計算がすらすら解けるようになる！	
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）				第2学期	10月 ～ 11月								
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。				B＋		B－		定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。					第2学期	10月 ～ 11月	★期末考査		1				
					定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。		定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。						第2学期		10月 ～ 11月							
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。				探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。				探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。					第3学期	12月 ～ 1月	看護で使う計算がすらすら解けるようになる！		15				
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができています。				応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。				応用的な問題にあまり取り組むことができていない。				第3学期		12月 ～ 1月	★期末考査		1				
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。				真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。				あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。					第3学期	2月 ～ 3月							
	振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。				振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かしていない。				振り返るべき内容をあまり考えることができていない。				第3学期		2月 ～ 3月							
総 時 間 数																		73				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	理科		科目名	生物												学 習 内 容	時数		
単位数	5	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →								●	第1 学期	4 月 ～ 5 月	1章1節 生物の起源と細胞の進化 1章2節 遺伝子の変化と進化のしくみ 1章3節 生物の系統と進化 2章1節 細胞と分子 2章2節 生命現象とタンパク質 【中間考査】	3 3 3 3 4 1	
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																学 期	6 月 ～ 7 月	2章3節 代謝	10
① 高校生物・生物エブリィノート・アクセスノート生物・（実教出版） ② ③ ④																			
学 習 の 重 点 目 標																			
自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す																			
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度										
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 副教材の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容について小テストを実施				①課題レポートの内容 単元毎に探究課題を実施 ②グループ活動・発表の内容 探究課題についてのグループ活動及び発表を実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 授業プリント・副教材 ③自己評価・振り返り 単元毎に自己評価・振り返りを実施										
	評 価 の 基 準																		
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）										
					B＋		B－												
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から発展まで万遍なく理解できている。				定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。		定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。		定期考査と小テストば合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。										
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。				探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。				探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。										
	発展的な内容も意欲的に学習し、身近な事物・現象に対し科学的な見方や考え方が身についている。				発展的な内容も学習し、ある程度の科学的に見方や考え方が身についている。				発展的な内容を学習することができていない。										
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言できている。				真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。				学習面・活動面においてもあまり取り組む気持ちがでない。										
	振り返るべき内容をきちんと考え、次の取り組みにしっかり活かすことができている。				振り返るべき内容は考えられているが、次の取り組みに活かすことがあまりできていない。				振り返るべき内容をあまり考えられていない。										
総 時 間 数															114				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数		
教科名	外国語【英語】		科目名	英語コミュニケーションⅡ						D	学	進	文	理	文	理	護		第1学期	LESSON3 Tokyo's Seven-minute Miracle		11	
単位数	3	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →												●		学 期	4月 ～ 5月		中間考査
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																		6月 ～ 7月			LESSON5 Gaudi and His Messenger		6
① LANDMARK Fit English Communication Ⅱ（啓林館） ② LANDMARK Fit English Communication Ⅱ Workbook（啓林館） ③ ④																		第2学期		8月 ～ 9月	中間考査		
学 習 の 重 点 目 標																				10月 ～ 11月	Optional Lesson 1 Optional Lesson 2 期末考査		17
外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。																		第3学期		12月 ～ 1月	Reading 期末考査		
評価の趣旨	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			学 期	2月 ～ 3月		69										
	各学期毎に、原則として中間・期末考査を実施し、その得点で評価を行う。 試験問題は、授業で学習した内容を中心に出题する。			ペアワークでの積極的な活動、英作文の仕上がりなどを評価する。			日常の学習態度、出席状況、課題や提出物、小テストの出来具合により評価を行う。																
評 価 の 基 準																							
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）																
				B＋	B－																		
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで理解することができている。			定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。	定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。		定期考査と小テストの合計が30点未満であり、基本的知識や概念があまり理解できていない。																
思・判・表	ペアワーク活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。			ペアワーク活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり表現することができている。			ペアワーク活動にあまり取り組むことができていない。																
	英作文や応用的な問題にも計画的に取り組み、適切に表現し理解することができている。			英作文や応用的な問題にも取り組み、ある程度表現し理解することができている。			英作文や応用的な問題にあまり取り組むことができていない。																
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組み、グループ活動においても積極的に発言することができている。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。																
	振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。			振り返るべき内容を表現することができているが、次の取り組みにあまり活かせていない。			振り返るべき内容をあまり考えることができていない。																
総 時 間 数																							

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース											C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数		
教科名	保健体育			科目名	体育（女）						D	学	特	進	進	特	特	看	第1学期	4月	5月	7		
単位数	3	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →															◇オリエンテーション スポーツテスト② ◇体づくり運動 ◆実技試験（高校生体操） ◇バドミントン ◇サッカー ◇実技理論（ルール）			
教科書・副教材・（発行所）																								
① 現代高等保健体育（大修館書店） ② Active Sports2022〔総合版〕（大修館書店） ③ ④																								
学 習 の 重 点 目 標																								
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。																								
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度															
評価の趣旨	①各種の運動ごとに実施する実技テスト（記録）の出来具合 ②新体力テストの出来具合 ③3学期のみ定期考査の出来具合				①各種の運動に応じた技能向上への取り組み ②グループ活動や技術達成のための取り組み ③感謝や思いやりから協力する姿勢や取り組み				①授業中の態度や意欲 ②授業への準備（服装・体操）に対する姿勢や態度 ③自己評価・振り返り・反省への態度															
評 価 の 基 準																								
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）															
					B＋		B－																	
知・技	実技テストと新体力テストの合計が80点以上であり基本的な技術が習得できている。 3学期のみ実技テストと定期考査。				実技テストと新体力テストの合計が55～79点である。 3学期のみ実技		実技テストと新体力テストの合計が30～54点である。 3学期のみ実技		実技テストと新体力テストの合計が30点未満であり、基本的な技術や知識があまり理解できていない。 3学期のみ実技テストと定期考															
思・判・表	グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、自分の考えを発言したり、適切に表現することができる。				グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。				グループ活動や課題となる運動技術の習得にあまり取り組むことができていない。				あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。											
	応用的な技術にも積極的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができる。				真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。																			
主体性・態度	運動技術の習得に向けて粘り強く取り組み、グループ活動やゲームでは積極的に活動することができる。				真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。				あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。															
	振り返るべき内容をきちんと考えて取り組むことができ、次の練習にしっかり活かすことができる。				振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かしていない。				振り返るべき内容をあまり考えることができていない。															
総 時 間 数																								64

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数										
教科名	看護			科目名	疾病の成り立ちと回復の促進（病態学）					D	学	特	進	進	特	特	看		第1学期	4月 ～ 5月		第1章 腎・泌尿器の基本的知識 Ⅰ 腎・泌尿器の構造と機能 Ⅱ 主な症状と病態生理 Ⅲ 主な検査	2 2								
単位数	1	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →												●			6月 ～ 7月	第1章 腎・泌尿器の基本的知識 Ⅲ 主な検査 Ⅳ 主な治療法	2								
教科書・副教材・（発行所）																		第2学期				8月 ～ 9月	10月 ～ 11月	第3学期	12月 ～ 1月	2月 ～ 3月	総 時 間 数	24			
① 教科書：2025看護学入門 成人看護Ⅱ 腎・泌尿器疾患患者の看護 ② ③ ④																															
学 習 の 重 点 目 標																															
①腎泌尿器の基礎知識を理解する ②腎泌尿器の主な疾患を理解する ③腎泌尿器疾患の看護を理解する																															
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第2学期	12月 ～ 1月	2月 ～ 3月	総 時 間 数	24														
評価の趣旨	①定期考査 1学期・・・中間考査80点 2学期・・・中間考査40点 期末考査40点 3学期・・・中間考査80点 ②確認テスト20点 単元毎に実施				①課題の内容 ②グループワーク・発表の内容 探求改題についてGWを実施				①事業中の態度や意欲 ②提出物の内容 事業プリント・ワークプリント・テスト等は指定通りとする ③ふり返り 単元毎に実施する自己評価やふり返り、課題の提出状況（ブレンド配信）																						
評 価 の 基 準																															
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）									第3学期	4月 ～ 5月	5月 ～ 6月	6月 ～ 7月	7月 ～ 8月	8月 ～ 9月	9月 ～ 10月	10月 ～ 11月	11月 ～ 12月	12月 ～ 1月	1月 ～ 2月	2月 ～ 3月	総 時 間 数	24
知・技	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解ができている				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である				定期考査と確認テストの合計得点が30～54である																						
思・判・表	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したりわかりやすくまとめることができる				課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる				課題にあまり取り組むことができない																						
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できる				予習・復習に取り組み、授業に参加できている				予習・復習に取り組み、授業に参加できていない																						
毎時間にふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができる				授業の内容についてふり返りができている				授業の内容についてふり返りができていない																							

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容			時数
教科名	看護		科目名	健康支援と社会保障制度												学 習 内 容			
単位数	2	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →								●	第1 学期	4月 ～ 5月	公衆衛生 第1章 公衆衛生とは	2	
																4月 ～ 5月	社会福祉 第1章 現代社会における社会福祉の意味	5	
																5月	中間考査	1	
																6月 ～ 7月	公衆衛生 第2章 環境と生体	4	
															6月 ～ 7月	社会福祉 第2章 社会福祉の発展	4		
教科書・副教材・（発行所）															第2 学期	8月 ～ 9月	公衆衛生 第2章 環境と生体 第3章 疾病の予防	5	
① 看護学入門5 保健医療福祉のしくみ（メヂカルフレンド社社） ② ③ ④																8月 ～ 9月	社会福祉 第3章 社会福祉制度と実施体制	4	
学 習 の 重 点 目 標																8月 ～ 9月	中間考査	1	
看護の見方・考え方を働かせ、健康支援と社会保障制度に関する実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次の通りに育成することを目指す。 （１）健康支援と社会保障制度について体系的・系統的に理解するようにする。 （２）基本的な課題を発見し、看護倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （３）よりよい看護実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む。																8月 ～ 9月			
															第3 学期	10月 ～ 11月	公衆衛生 第3章 疾病の予防 第4章 人口と衛生統計	7	
																10月 ～ 11月	社会福祉 第4章 社会福祉の援助とソーシャルワーク 第5章 社会保険と関連制度	7	
																10月 ～ 11月	期末考査	1	
																12月 ～ 1月	公衆衛生 第5章 保健活動	4	
															第3 学期	12月 ～ 1月	社会福祉 第6章 これからの社会福祉	5	
																12月 ～ 1月	期末考査	1	
																2月 ～ 3月			
																2月 ～ 3月			
															総 時 間 数			51	

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	看護			科目名	基礎看護					D	学	特	進	進	特	特	看護		第1学期	a：第1章 看護とは		5
単位数	3	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →												●		臨実Ⅲ：事例展開 皮膚疾患患者の看護	14	
教科書・副教材・（発行所）																		第2学期		6月～7月	a：第2章 看護の対象の理解力	2
① 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学1（医学書院） ② 患者さんの情報収集ガイドブック（メヂカルフレンド社） ③ 看護学生のためのレポート＆実習記録の書き方（メヂカルフレンド社） ④ 看護学生のための臨地実習ナビ（照林社）																				8月～9月	臨実Ⅲ：事例展開 眼疾患患者の看護	5
学 習 の 重 点 目 標																			第3学期	10月～11月	a：第3章 国民の健康状態と生活 第4章 看護の提供者	2 2
看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次の通りに育成することを目指す。 (1)看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2)看護に関する基本的な課題を発見し、看護倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)よりよい看護実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的・協働的に取り組む。																				12月～1月	臨実Ⅲ：眼疾患患者の看護 耳鼻咽喉疾患患者の看護	8
評価の趣旨	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第4学期	2月～3月	中間考査	1						
	①定期考査 1学期…中間考査80点 2学期…中間考査40点 期末考査40点 3学期…期末考査80点 ②確認テスト20点				①事例記録や課題の内容 ②グループワーク・発表の内容 探究課題についてグループワークを実施				①授業中の態度や意欲 ②課題の提出状況 ③ふり返り 毎時間ごとにBLENDを活し、「学びのポイント」や「自己評価」、「自己課題」を記入					10月～11月	a：第5章 看護における倫理 第6章 看護の提供のしくみ	2 2						
評 価 の 基 準																		第5学期	12月～1月	期末考査	1	
知・技	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）				臨実Ⅲ：歯科・口腔疾患患者の看護 アレルギー・膠原病患者の看護	14								
					B＋		B－								期末考査	7						
思・判・表	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。				1					
	主体性・態度	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題にあまり取り組むことができていない。				予習・復習に取り組むことができていない。				1				
グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。				グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。				予習・復習に取り組むことができていない。				1						
予習・復習に取り組む、授業にも積極的に発言し参加できている。				予習・復習に取り組む、授業に参加できている。				予習・復習に取り組むことができていない。				予習・復習に取り組むことができていない。					1					
毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。				授業の内容についてふり返りができている。				授業の内容についてふり返りができていない。				授業の内容についてふり返りができていない。				1						
総 時 間 数																		71				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数		
教科名	看護			科目名	在宅看護					D	学	特	進	進	特	特	看護		第1学期	人々の暮らしと地域・看護		3	
単位数	1	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →												●		学 期	4月～5月	・人々の暮らしの理解 ・地域・在宅看護の役割	1 3
教科書・副教材・（発行所）																		第1学期			6月～7月	暮らしの基盤としての地域の理解	
① 地域・在宅看護の基盤（医学書院） ② ③ ④																			学 期		6月～7月	・暮らしと地域 ・暮らしと地域を理解するための考え方 ・地域包括システムと地域共生社会 （演習・ワークシート）	
学 習 の 重 点 目 標																				第2学期	8月～9月	地域社会による多様性 ・家族の理解 （演習・ワークシート）	6 1 7
看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、在宅看護の実践に必要な資質・能力を次の通りに育成することを目指す。 （1）在宅看護について体系的・系統的に理解をするとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 （2）在宅看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。 （3）在宅看護の実践を自ら学び、在宅療養者の健康の保持増進に主体的・共同的に取り組む態度を養う。																		第2学期			10月～11月	地域社会による多様性 ・地域に暮らす対象者の理解と看護 （演習・ワークシート） 地域における暮らしを考える ・暮らしを支える看護 ・暮らしの環境を整える看護 期末考査	
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第3学期	12月～1月	地域における暮らしを考える ・広がる看護の対象と提供方法 ・地域における家族への看護 ・地域におけるライフステージに応じた看護 ・地域での暮らしにおけるリスクの理解 ・地域での暮らしにおける災害対策 期末考査	6 1										
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）							学 期	2月～3月								
				B＋			B－																
知・技	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解ができている。			定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。			定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。			定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。。			第3学期	2月～3月									
思・判・表	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表をしたり、わかりやすくまとめることができる。			課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。			課題にあまり取り組むことができない。			グループワークにあまり取り組むことができない。							1						
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。			予習・復習に取り組み、授業に参加できている。			予習・復習に取り組むことができず、授業にも参加できていない。			授業の内容についてポイントについて振り返りができている。													
	毎時間振り返りができ、授業のポイントについて適切なないよう表現することができている。			授業の内容についてポイントについて振り返りができている。			授業の内容について振り返りができていない。						総 時 間 数	29									

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	看護			科目名	成人看護					D	学	特	進	進	特	特	看護	第1学期	内分泌・代謝疾患患者の看護 第1章 基礎知識		6	
単位数	4	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →											●		脳・神経および運動器疾患患者の看護 第1章 基礎知識（しくみとはたらき）		5	
教科書・副教材・（発行所）																			中間考査		1	
① 新看護学10 成人看護〔2〕血液・造血器 内分泌・代謝 脳・神経 運動器 ② ③ ④																			内分泌・代謝疾患患者の看護 第2章 主な疾患		11	
学 習 の 重 点 目 標																			第1学期	脳・神経および運動器疾患患者の看護 第1章 基礎知識（症状とその病態生理）		10
成人期にある対象の生活、保健および疾病について理解させ、成人看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。																						
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度						第2学期	内分泌・代謝疾患患者の看護 第3章 患者の看護		12				
評価の趣旨	①定期考査 1学期…中間考査80点 2学期…中間考査40点 期末考査40点 3学期…期末考査80点 ②確認テスト20点 前回の授業内容について出題				①課題の内容 単元ごとに授業内容に関する 1 課題を実施・提出 ②グループワーク・発表の内容 探究課題についてグループ1 1 ワークを実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 授業ノート、ファイル、課題は指定通りに綴じる。 授業ノート、ファイルの提出。 ③ふり返り 定期考査後に行う自己評価やふり返り、課題の提出状況を評価							脳・神経および運動器疾患患者の看護 第1章 基礎知識（おもな診察・検査）		12				
																中間考査		1				
	評 価 の 基 準																			血液・造血器疾患患者の看護 第1章 基礎知識 第2章 おもな疾患 脳・神経および運動器疾患患者の看護 第1章 基礎知識（おもな治療）		10
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）						第3学期	期末考査		1				
知・技					B＋		B－															
	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。		定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。		定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。							血液・造血器疾患患者の看護 第3章 患者の看護		7				
																脳・神経および運動器疾患患者の看護 第2章 おもな疾患		8				
思・判・表	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題にあまり取り組むことができていない。						期末考査		1					
	グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。				グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。													
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。提出物を毎回期日までに提出する。				予習・復習に取り組み、授業にも参加できている。促すと提出物を出すことができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。提出物を出すことができない。													
	毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。				授業の内容についてふり返りができている。				授業の内容についてふり返りができていない。													
総 時 間 数																			98			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	看護			科目名	小児看護					D	学	特	進	進	特	特	看護	第1学期	I 小児看護の基本	4	
単位数	1	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →													中間考査	1	
教科書・副教材・（発行所）																		第1学期	II 小児保健	2	
① 看護各入門12 母子看護（メジカルフレンド社） ② ③ ④																			6月～7月		
学 習 の 重 点 目 標																		第2学期	III 小児の解剖・生理 IV 小児の成長・発達 V 小児の栄養	5	
看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、小児看護の実践に必要な資質・能力の育成をめざす。 (1)小児看護について体系的・系統的に理解するとともに関連する技術を身につけるようにする。 (2)小児看護に関する多様な課題を発見し、看護倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3)よりよい看護実践を目指し自ら学び、小児の健康保持増進に主体的・協働的に取り組む態度を養う。																			中間考査	1	
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第2学期	VI 発達段階ごとの小児の看護 VII 小児の養護	6						
評価の趣旨	①定期考査 1学期…中間考査80点 2学期…中間考査40点 期末考査40点 3学期…期末考査80点 ②確認テスト20点 前回までの授業内容について出題				①課題（ワークプリント）の内容 単元ごとに授業内容に関する課題（ワークプリント）を実施・提出 ②グループワーク・発表の内容 探究課題についてグループワークを実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 授業プリント等は指定通り ファイルに綴じる ③ふり返り 定期考査後に実施する自己評価やふり返り、課題の提出状況を評価					期末考査	1						
評 価 の 基 準																		第3学期	VIII 小児の疾病予防（予防接種） IX 小児の精神保健	4	
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）				12月～1月	1							
知・技	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。				定期考査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。				2月～3月				
思・判・表	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題にあまり取り組むことができていない。				第3学期	期末考査	1						
	グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。				グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。												
主体性・態度	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。				予習・復習に取り組み、授業に参加できている。				予習・復習に取り組むことができず、授業への参加も積極的ではない。				第3学期								
	毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。				授業の内容についてふり返りができている。				授業の内容についてふり返りができていない。												
総 時 間 数																		25			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	看護			科目名	母性看護					D	学	進	文	理	文	理	看護		第1学期	4月 ～ 5月		第1章 母性看護概論
単位数	1	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →														第1学期	6月 ～ 7月	第2章 正常な妊婦、産婦、褥婦および新生児の理解
教科書・副教材・（発行所）																						
① 看護学入門1 2 母子看護 母性の看護（メヂカルフレンド社）																						
②																						
③																						
④																						
学 習 の 重 点 目 標																						
看護の見え方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して母性看護の実践に必要な資材・能力を目ざす。																						
（1）母性看護の実践について体系的・統計的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。																						
（2）母性看護の多様な課題を発見し、看護の職業論理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養																						
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第2学期	8月 ～ 9月	第2章 正常な妊婦、産婦、褥婦および新生児の理解	8						
評価の趣旨	①定期検査 1・2学期…中間検査40点 期末検査40点 3学期…期末検査80点 ②確認テスト20点 前回の授業内容について出題				①課題の内容 単元ごとに授業内容に関する課題を実施・提出 ②グループワーク・発表の内容 探究課題についてグループワークを実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 授業ノート、ファイル、課題は指定通りに綴じる。 授業ノート、ファイルの提出。 ③ふり返り 定期検査後に行う自己評価やふり返り、課題の提出状況を評価					10月 ～ 11月	第3章 妊婦、産婦、褥婦および新生児の看護	5						
評 価 の 基 準																						
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）				第3学期	12月 ～ 1月	第4章 妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常	5						
知・技	定期検査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。				定期検査と確認テストの合計得点が55～79点である。				定期検査と確認テストの合計得点が30～54点である。					定期検査と確認テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。				2月 ～ 3月	第4章 妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常	1		
思・判・表	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。				課題に取り組む、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。				課題にあまり取り組むことができていない。				第3学期	2月 ～ 3月	第4章 妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常	1						
主体性・態度	グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。				グループワークに取り組む、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。					グループワークにあまり取り組むことができていない。提出物を出すことができない。				2月 ～ 3月	第4章 妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常	1		
主体性・態度	予習・復習に取り組む、授業にも積極的に発言し参加できている。提出物を毎回期日までに提出する。				予習・復習に取り組む、授業にも積極的に参加できている。促すと提出物を出すことができる。				グループワークにあまり取り組むことができていない。提出物を出すことができない。				第3学期	2月 ～ 3月	第4章 妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常	1						
主体性・態度	毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。				授業の内容についてふり返りができている。				授業の内容についてふり返りができていない。					総 時 間 数				29				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	看護		科目名	精神看護												学 習 内 容	時数	
単位数	1	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →								●	第1 学期	4月 ～ 5月	序章 精神看護のとらえ方 第1章 心の健康と発達	
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																6月 ～ 7月	第2章 心の働きと危機 第3章 精神障害者の診療	
① 教科書：2025看護学入門精神看護（メヂカルフレンド社） ② ③ ④																		
学 習 の 重 点 目 標																		
①精神看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②精神看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ③精神看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の心身の健康の保持増進に主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。																		
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第2 学期	8月 ～ 9月	第4章 主な精神障害者の治療						
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 考査の問題は教科書や問題集の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容についての10分間小テストを実施			①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価 ②定期考査後の振り返り課題レポートの記述内容を評価 ③練習問題や探究課題についてのグループ活動や発表の内容を評価			①授業中の態度や意欲を評価 ②課題レポートや問題集の提出状況の評価 ③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価											
評 価 の 基 準															10月 ～ 11月	第5章 精神障害者の看護 第6章 精神保健福祉の変遷 第7章 精神保健福祉対策		
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）												
				B＋	B－													
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。			定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。	定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。	定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。			第3 学期	12月 ～ 1月	第8章 精神的健康の保持増進							
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。			探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。			探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。											
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。			応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。			応用的な問題にあまり取り組むことができていない。											
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。						2月 ～ 3月					
	振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。			振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。			振り返るべき内容をあまり考えることができていない。											
総 時 間 数															0			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	看護		科目名	看護臨地実習（基礎）			学 習 内 容														
単位数	2	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →										●	第 1 学 期	4月 ～ 5月			
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																		6月 ～ 7月	病院での臨地実習	70	
学 習 の 重 点 目 標																					
1) 臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2) 臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3) 臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。																					
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第 2 学 期	8月 ～ 9月							
評価の趣旨	(1) 臨床指導者評価 臨床指導者に評価を依頼する。評価表の項目について3段階で評価を行い点数化する（45点） (2) 教員評価 実習記録の内容を評価する。評価表の項目について3段階評価し点数化する（50点） (3) 記録提出点 記録の提出状況を評価する（5点）				(1) 教員評価 実習記録と実習態度から以下の達成度を評価する（実習を終えて、No.1感想、実習態度） ①良いコミュニケーションを取るための原則を理解する ②患者との意思疎通を図る ③指導者や看護師とのコミュニケーション方法を理解する				(1) 教員評価 実習記録と実習態度から以下の達成度を評価する（No.1、No.2、事前・事後学習、実習態度） ①患者にとって最適な環境を理解する ②患者の日常生活援助を理解する ③報告・連絡・相談 ④目標・計画 ⑤態度												
評 価 の 基 準																	10月 ～ 11月				
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）												
知・技	評価点の合計が80点以上である。病院の機能と看護の役割が理解できる。また、看護の対象の身体的・精神的・社会的側面を理解し、看護上の問題を考えることができる。				B＋		B－		評価点の合計が30点未満である。病院の機能と看護の役割が理解が不十分である。また、看護の対象の身体的・精神的・社会的側面を理解し、看護上の問題を考えることができない。												
					評価点の合計が55～79点。		評価点の合計が30～54点。														
思・判・表	看護におけるコミュニケーション技術を理解することができる。（挨拶、言葉遣い、態度、身だしなみ、笑顔を心掛ける）。患者の意思を尊重し、傾聴できる） 指導者や看護師とのコミュニケーション方法を理解することができる。（報告・連絡・相談）				指導があれば看護におけるコミュニケーション技術を理解することができる。				看護におけるコミュニケーション技術を理解が不十分である。												
					指導があれば指導者や看護師とのコミュニケーション方法を理解することができる。				指導を受けても指導者や看護師とのコミュニケーション方法を理解が不十分である。												
主体性・態度	療養の場における日常生活の援助を理解できる。（日常生活の実施・見学） 指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に積極的に実習できる。また、実習目標や計画に具体性がある。				指導があれば療養の場における日常生活の援助を理解できる。				指導を受けても療養の場における日常生活の援助を理解できない。												
					指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に取り組んでいる。また、指導があれば実習目標や計画に具体性がある。				指導者や教員に報告・連絡・相談をすることができない。また、指導を受けても実習目標や計画に具体性がない。												
総 時 間 数																	70				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	看護		科目名	看護臨地実習（成人）			学 習 内 容														
単位数	2	学科	看護科	学年	3年	該当するコース・科 →										●	第 1 学 期	4月 ～ 5月			
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																					
学 習 の 重 点 目 標																					
1) 臨地における看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 2) 臨地における看護に関する多様な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて解決策を探究し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。 3) 臨地における看護について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全と安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。																					
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第 2 学 期	8月 ～ 9月							
評価の趣旨	(1) 臨床指導者評価 臨床指導者に評価を依頼する。評価表の項目について3段階で評価を行い点数化する（45点） (2) 教員評価 実習記録の内容を評価する。評価表の項目について3段階評価し点数化する（50点） (3) 記録提出点 記録の提出状況を評価する（5点）				(1) 教員評価 実習記録と実習態度から以下の達成度を評価する（実習を終えて、No.1感想、実習態度） ①良いコミュニケーションを取るための原則を理解する ②患者との意思疎通を図る ③指導者や看護師とのコミュニケーション方法を理解する				(1) 教員評価 実習記録と実習態度から以下の達成度を評価する（No.1、No.2、事前・事後学習、実習態度） ①患者にとって最適な環境を理解する ②患者の日常生活援助を理解する ③報告・連絡・相談 ④目標・計画 ⑤態度												
評 価 の 基 準																					
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）				第 3 学 期	10月 ～ 11月							
					B＋		B－														
知・技	評価点の合計が80点以上である。病院の機能と看護の役割が理解できる。また、看護の対象の身体的・精神的・社会的側面を理解し、看護上の問題を考えることができる。				評価点の合計が55～79点。		評価点の合計が30～54点。		評価点の合計が30点未満である。病院の機能と看護の役割が理解が不十分である。また、看護の対象の身体的・精神的・社会的側面を理解し、看護上の問題を考えることができない。												
思・判・表	看護におけるコミュニケーション技術を理解することができる。（挨拶、言葉遣い、態度、身だしなみ、笑顔を心掛ける）。患者の意思を尊重し、傾聴できる） 指導者や看護師とのコミュニケーション方法を理解することができる。（報告・連絡・相談）				指導があれば看護におけるコミュニケーション技術を理解することができる。				看護におけるコミュニケーション技術を理解が不十分である。												
主体性・態度	療養の場における日常生活の援助を理解できる。（日常生活の実施・見学） 指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に積極的に実習できる。また、実習目標や計画に具体性がある。				指導があれば療養の場における日常生活の援助を理解できる。				指導を受けても療養の場における日常生活の援助を理解できない。												
指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に取り組んでいる。また、指導があれば実習目標や計画に具体性がある。				指導者や教員に報告・連絡・相談を行い、実習に取り組んでいる。また、指導があれば実習目標や計画に具体性がある。				指導を受けても実習目標や計画に具体性がない。													
総 時 間 数																		70			